

クルーズキーパーソンへ北海道の魅力を紹介！ ～ 道内港湾と周辺観光地の視察を実施 ～

北海道クルーズ振興協議会では、北海道、室蘭市、稚内市、網走市、釧路市と連携し、8月18日（土）～24日（金）の1週間、欧米の富裕層が多く乗船するラグジュアリーなクルーズを展開している「クリスタル・クルーズ社」の副社長で、寄港地観光の責任者でもあるクラウドィウス・ドスカル氏をお招きし、各港湾と周辺の観光地の視察を実施いたしました。

クラウドィウス氏は、寄港地観光の責任者も務められていることから、協議会では、欧米の旅行者のニーズにある「自然」「文化・歴史」「地元の日常」と視察のポイントを押さえ各地と調整し視察に臨みました。

（主な道内の視察先）

「自然」

登別地獄谷、洞爺湖ヘリコプター遊覧、宗谷丘陵、小清水原生花園、知床五湖、丹頂鶴自然公園、釧路湿原

「文化・歴史」

室蘭八幡宮、北方民族博物館、大鵬記念館、アイヌ古式舞踊見学、巖島神社正式参拝

「地元の日常」

はかま着付け・折り紙体験（室蘭）、こんぶ干し作業・イカ釣り船見学（稚内）、アイス作り体験（稚内）、和商市場

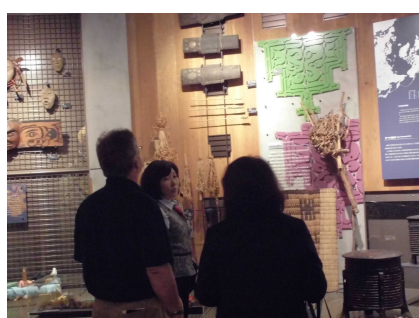
クラウドィウス氏からは各地での視察に関して「体験をとおして市民と触れあえることが魅力である」（室蘭）、「コンブ干し作業など地元の生活触れることができて感激した」（稚内）、「展示品や昔の北方民族の記録映像は世界的にも価値がある」（網走）、「お年寄りやお子様でも楽に湿原を楽しむことができるように整備された木道は素晴らしい」（知床）、「自然に近い形で飼育されている鶴は魅力である」（釧路）、等のコメントがありました。

北海道運輸局の訪問時には「2020年の北海道への寄港は決まっているが、今回は2021年以降のプランも見据えて視察を行っている。さらに多くの寄港が可能となるよう手助けをいただきたい」と北海道への寄港への意欲を見せていました。

北海道クルーズ振興協議会では、引き続き、道内の自治体等と連携して、クルーズ客船の新規寄港誘致に向けて取り組んでいきたいと考えております。



和服の着付けを体験するクラウドィウス氏



北方民族の展示品を熱心にご覧になっていました



北海道運輸局長から記念品をお渡ししました